

A 事 業

I 日本自転車振興会補助事業

1. アジア太平洋協力意見交換会

アジア太平洋地域との産業協力・経済交流・相互理解の促進を図るため、アジアに関する講演会、セミナー等のほか、会員相互・来日アジア要人との交流会、意見交換会等を開催した。

(1) 月例講演会

開催日	テーマ・講師	参加人数
春季セミナー 平成16年4月22日	「第二次プーチン政権の行方と日露関係」 —エネルギー問題を中心に— 畔蒜 泰助 ジャーナリスト 十市 勉 (財)日本エネルギー経済研究所 常務理事・首席研究員	44
第291回 平成16年5月24日	「国際通貨情勢」—最近の円高、ドル安を中心として— 緒方 四十郎 (元開発銀行副総裁)	69
第292回 平成16年7月1日	「北京のジレンマ・台湾問題における経済と軍事の板ばさみ」—米中関係の動向も含めて— 趙 全勝 (アメリカン大学国際関係学部、ハーバード大学フェアバンク東アジアセンター研究員)	49
第293回 平成16年7月30日	「マルチ・メディア時代の中国の対日世論」 青山 瑠妙 (早稲田大学教育学部 助教授)	51
第294回 平成16年8月31日	「インドネシア政治の現状と展望」 白石 隆 (京都大学東南アジア研究センター教授)	49
第295回 平成16年9月27日	「フィリピンのIT産業の現状—現場の声から—」 川津 泰人 (元BSPシンガポール代表取締役社長) Peter U. Tan (ピーター・タン) Manager, ADTX Systems Inc	19
第296回 平成16年10月7日	「中国の東シナ海海洋戦略と日本の国益」 平松 茂雄 (杏林大学社会科学部教授)	38
第297回 平成16年11月18日	「少子高齢化とこれからの日本」 清家 篤 (慶応義塾大学商学部教授)	33

冬季連続セミナー 第1回 平成16年12月13日	「東アジアの国際環境と地域間協力」 近藤 重克（防衛庁防衛研究所統括研究官） 高田 智之（共同通信メディア局編集部長）	50
第2回 平成16年12月14日	真柄 昭宏（参議院議員竹中平蔵政策秘書） 稗田 浩雄（財）（未来工学研究所理事）	
新春講演会 平成17年1月12日	「米軍再編と日米安保」 森本 敏（拓殖大学国際関係学部教授）	65
第298回 平成17年3月10日	「ブッシュ政権2期目のアジア外交」 村田 晃嗣（同志社大学法学部助教授）	45

（2）ACFアジア研究会

1. 「中国経済の台頭と日本産業界」 座長：横田高明 大阪産業大学経済学部教授

開催日	テーマ・講師	参加人数
第61回 平成16年4月26日	「環境ビジネスのターゲットは中国」 青山 周（日本経団連 環境・技術本部 環境グループ長）	18
第62回 平成16年5月24日	「日本の能力構築競争と中国」 藤本 隆宏（東京大学大学院 経済学研究科教授）	29
第63回 平成16年6月17日	「ダンのビジネスモデル—中国で靴下を作る」 丸川 博雄（株式会社ダン 常務取締役）	14
第64回 平成16年7月29日	「中国のエネルギー事情と対中進出する日系企業への影響」 高見澤 学（（財）日中経済協会 事業開発部主査）	22
第65回 平成16年8月27日	「中国におけるビジネスチャンスとリスク」 —建設機械を中心に— 茅田 泰三（コマツ 執行役員 建機マーケティング本部 海外営業本部長）	21
第66回 平成16年10月14日	「中国経済の台頭と日中モノづくり構造変化」 —連続講座のまとめとして— 横田 高明（大阪産業大学経済学部教授）	23

2. 「FTA締結競争下の東南アジア諸国の戦略」 座長：北村かよ子 拓殖大学国際開発学部教授

第67回 平成16年10月25日	「経済連携時代におけるタイの新開発戦略」 大泉 啓一郎 （日本総研 環太平洋研究センター 主任研究員）	19
第68回 平成16年11月29日	「ASEANのFTA（AFTA および対外FTA）とインドネシアの対応」 石川 幸一（（財）国際貿易投資研究所 研究主幹）	22

第 69 回 平成 17 年 12 月 20 日	「フィリピン経済の現状と F T A への対応」 鈴木 有理佳 (アジア経済研究所東南アジア I 研究グループ)	2 0
第 70 回 平成 17 年 1 月 17 日	「マレーシアの開発政策」 小野沢 純 (拓殖大学 国際開発学部教授)	2 2
第 71 回 平成 17 年 3 月 7 日	「ASEAN の自立的発展のための課題と日本の役割」 北村 かよ子 (拓殖大学 国際開発学部教授)	1 4

(3) アジアビジネス研究会－中東石油編

A C F アジア研究会「アジア経済と中東石油」(座長：唐沢 敬 東京国際大学教授/立命館大学名誉教授)での成果を踏まえ、昨年に引き続き、イラク戦争により一層混迷を深めた日本のエネルギー問題を、日本を代表する中東専門家、エネルギー問題研究者 4 名による研究会を開催し、研究成果を書き下ろした。

第 4 回 6 月 7 日

第 5 回 7 月 6 日

第 6 回 7 月 2 6 日

出席者：唐沢 敬 東京国際大学教授 (座長)

武石 礼司 富士通総研 (株) 経済研究所上席主任研究員

大野 元裕 中東調査会客員研究員 (株) ゼネラルサービス取締役

須藤 繁 国際開発センターエネルギー・環境室 主任研究員

(4) ロバート・マンデル博士講演会 共催：東京経済大学

「アジアにおける最適通貨システム」

「最適通貨圏論」の提唱者として知られている、コロンビア大学教授のロバート・マンデル博士をむかえ、アジアの通貨問題の現実を踏まえながら、人民元を視野に入れたアジア通貨安定化構想についての講演会を開催した。

開催日：平成 1 6 年 6 月 1 0 日 (木)

開催場所：東商ホール

参加人数：約 5 0 0 名

(5) 中央アジアセミナー

エネルギー資源をめぐって世界的に注目を集める中央アジア地域の経済、産業、政治状況及びその周辺国との関係等様々な角度から解説するセミナー A C F 講座「中央アジアを知る」(第 2 5 回～第 2 8 回)を開催し、全 4 回、1 4 2 名が受講した。

座長：高橋 和夫（国際政治学者／放送大学助教授）

開催日	テーマ・講師
第25回 平成16年8月6日	「中央アジアと環境問題」 小池 百合子（環境大臣/前中央アジア研究所理事長） コメンテーター 田中 哲二 （(株)東芝常勤顧問/国連大学長上級顧問 /キルギス共和国大統領経済顧問）
第26回 平成16年9月21日	「イスラームの復興」 小松 久男（東京大学大学院教授）
第27回 平成16年12月3日	「アフガニスタン大統領選挙の総括 ：まだ続くイバラの道」 柴田 和重（アフガン・ネットワーク） コメンテーター 田中 浩一郎（(財)中東経済研究所 首席研究員）
第28回 平成17年1月18日	「日本の対中央アジア政策の新展開」 道井 緑一郎（外務省 中央アジア・コーカサス室長）

（6）中央ユーラシア調査会

我が国において調査、研究の遅れている中央ユーラシア地域（朝鮮半島から小アジアにかけて存在する国々及び地域）の政治、経済、産業、文化、歴史等全般について基礎的な調査・研究を行い、各国を専門とするメンバー相互に情報提供し、討議することにより、当該地域に関する認識を深めることを目的とする。構成メンバーは研究者、現地経験者を中心とする専門家40名。本年度は全10回開催し、112名が出席した。

座長：袴田 茂樹（青山学院大学 国際政治経済学部教授）

開催日	テーマ・報告者
第39回 平成16年4月28日	「アフガニスタンの現状：新憲法は制定されたものの・・・」 柴田 和重（アフガン・ネットワーク）
第40回 平成16年5月20日	「中央アジアを中心としたエネルギーのネットワーク」 岡田 晃枝（東京大学大学院総合文化研究科 「人間の保障プログラム」助手）
第41回 平成16年7月28日	「コーカサス視察ミッション アゼルバイジャン、グルジア報告」 豊島 格（(社)世界貿易センター会長） 田中 哲二（(株)東芝常勤顧問/国連大学長上級顧問 /キルギス共和国大統領経済顧問）
第42回 平成16年8月26日	「中国と南アジアの新外交経済政策」 浜 勝彦（創価大学 教授） 「ロシア・ウズベキスタン報告」 袴田 茂樹（青山学院 国際政治経済学部教授）

第43回 平成16年9月24日	輪島 実樹 ((社) ロシア東欧貿易会 ロシア東欧経済研究所 調査役) 「カスピ海資源輸送問題の現状 ～石油を中心に～」
第44回 平成16年10月18日	「日本の新たな対中央アジア政策について」 ゲスト講師 道井 緑一郎 (外務省 欧州局 中央アジア・コーカサス室長)
第45回 平成16年11月26日	「南西アジアから見た中央アジア・コーカサス」 清水 学 (一橋大学経済学研究科 教授)
第46回 平成16年12月22日	「世論調査を通して見た中央アジア社会 - ウズベキスタンとタジキスタンを中心に -」 ティムール・ダダバエフ (東洋大学東洋文化研究所 東洋学情報センター助教授)
第47回 平成17年2月25日	「中央アジアに勤務しての実感」 ゲスト講師 河東 哲夫 (日本政策投資銀行設備投資研究所 上席主任研究員)
第48回 平成17年3月30日	「日本の対中央アジア外交」 ゲスト講師 川口 順子 (内閣総理大臣補佐官/前外務大臣) 「中央アジア出張報告 — アカエフ政権の崩壊 —」 田中 哲二氏 ((株)東芝常勤顧問/国連大学長上級顧問)

2. アジア太平洋シンポジウムの企画・開催

(1) マレーシア・日本国際フォーラム

日本企業の進出先として高い評価を受けてきたマレーシアも、近年中国、ベトナム等の投資環境の改善により、投資先としての優位性に陰りが見え始めている。生産性効率の向上を図り、産業構造の高度化をねらうマレーシア経済にとって、サポーティング・インダストリー（裾野産業）の強化が必要である。裾野産業は地場企業のみならず、日系企業を含む外資系企業に依存する部分が少なくない。中長期的な産業集積実現のためには、早急に地場企業を育成・強化することが望まれる。日本・マレーシアの協力による地場企業全体の底上げと **global supply chain** への取り込みが緊急の課題である。このような状況を鑑み、マレーシアの裾野産業の国際力強化についてのフォーラムを開催した。

- ・開催日：平成17年3月16日（水）午前9時～午後1時30分
- ・開催場所：マレーシア クアラルンプール（マンダリン・オリエンタル・ホテル）
- ・テーマ：サポーティングインダストリー・中小企業の国際競争力強化と日マ協力
- ・パネリスト：

日本側

穴沢 眞（小樽商科大学 教授）

高多 理吉（福岡工業大学 教授）

小島 昌美 (バルダ・トン・フック・ソリューション 社長)
田中 恒雄 (JETRO クアラルンプール 所長)
早瀬 紘一 (JETRO 海外投資アドバイザー)
豊島 格 ((財) アジアカラブ 理事長)

マレーシア側

Dr. Nungsari Ahmad Radhi, Director, World Enterprise Institute
Dato' Zulkifli Malek, Country Advisor, Mizuho Trust & Banking Co., Ltd.
Ms. Hafsa Hashim, Chief Executive Officer, SMIDEC
Mr. Marianus Vong, Director, SME Unit, Bank Negara
Mr. Ong Wah Teng, Director, MIDA
Mr. Cheok Weng Hor, Senior Director, TFS EMS Sdn. Bhd.

- ・コーディネーター：小野沢 純 (拓殖大学 教授)
- ・参加者 25 名

(2) ベトナム国際シンポジウム報告講演会

平成16年3月4日にベトナム・ハノイで開催された国際シンポジウムの成果をもとに、日越投資協定、共同イニシアチブなど新たな局面に入った日越経済、投資環境事情について、シンポジウム参加講師から最新情報を交えた新たな変化、今後の課題についての講演会を開催した。

- ・開催日：平成16年7月9日(金) 午後1時30分～午後4時
- ・開催場所：スカイホール フォンテーヌ (世界貿易センタービル38階)
- ・テーマ：最新ベトナム投資・経済事情～ベトナムはどう変わったか～
- ・講師：江橋 正彦 (明治学院大学国際学部 教授)
トラン・ヴァン・トウ (早稲田大学社会科学部 教授)
酒井 仁司 (野村総合研究所 上席コンサルタント)
山田 康博 (前JETRO ハノイ所長)

コーディネーター：江橋 正彦 (明治学院大学国際学部 教授)

参加者：86名

(3) カンボジア・ビジネス・フォーラム

1993年の総選挙で発足した新政権により、カンボジアは行政、司法、立法全ての分野で民主主義体制の新たな構築が図られ、国内経済も徐々に回復の途を歩み始め、ASEAN、WTO など国際経済への参画についてもその立場を固めつつある。しかし一方では、国際援助に全面的に依存せざるを得ない国内基盤の脆弱性や、行政、司法の制度面の不備、外国直接投資の不振、政府内の汚職などさまざまな問題を抱えている。

伝統的社会から自立経済への離陸の準備段階のカンボジアが調和ある発展を目指す上で

の課題について日本とカンボジアの識者間で忌憚のない意見交換を行った。

- ・開催日：平成16年12月21日（火）午前10時～午後5時30分
- ・開催場所：スカイホール マリーン（世界貿易センタービル38階）
- ・テーマ：21世紀における日本・カンボジア経済協力関係
- ・パネリスト：

H.E. Cham Prasidh, Senior Minister of Commerce, Kingdom of Cambodia

山村 信幸（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋研究学科大学院 客員教授）

松田 教男（国際協力機構中部国際センター（JICA 中部） 所長）

関本 喜茂（元・カンボジア商業省 アドバイザー）

- ・コーディネーター：今川 幸雄（元・駐カンボジア王国 特命全権大使
関東学園大学 教授）

- ・参加者：20名

（4）カンボジア・ビジネス・フォーラム特別講演会

- ・開催日：平成16年12月22日（水）午後2時～午後4時
- ・開催場所：世界貿易センタークラブ（世界貿易センタービル38階）
- ・テーマ：①カンボジアの投資環境整備について
②メコン開発とカンボジア など
- ・講師：H.E. Cham Prasidh, Senior Minister of Commerce, Kingdom of Cambodia
- ・コーディネーター：今川 幸雄（元・駐カンボジア王国 特命全権大使
関東学園大学 教授）
- ・参加者：48名

（5）ラオス・ビジネス・フォーラム

1986年の旧ソビエト連邦が着手したペレストロイカはラオスの「チンタナカーン・マイ（新思考）」ベトナムの「ドイモイ（刷新）」へとインドシナ諸国に波及し、これらの国は経済改革と対外開放に本格的に取り組む姿勢を内外に示した。以来ラオスでは市場経済が浸透し、通貨危機の後遺症からも回復し、2004年10月にはラオス外国投資奨励法が再び改正され、経済発展に向けて外資を取り込む戦略を示した。しかし、内陸国ラオスはメコン河流域を機軸とする周辺諸国との良好な関係を築くことが平和と繁栄の道であることは間違いない。

このような状況にあるラオスに日本が果たすべき役割、地域経済協力などについて、忌憚のない意見交換を行った。

- ・開催日：平成17年3月3日（木）午前10時～午後5時30分
- ・開催場所：スカイホール マリーン（世界貿易センタービル38階）
- ・テーマ：ラオスの挑戦—経済統合とメコン開発のコンテクスト

・パネリスト：

H.E. Soulivong Daravong, Minister, Ministry of Commerce

Mr. Vilayvong Bouddakham, Deputy Director General, DDFI, Committee for
Planning and Investment(CPI)

鈴木 基義 (鈴鹿国際大学 学長)

多田羅 徹 (アジア開発銀行研究所 Dean 特別アドバイザー、
首席人材スペシャリスト)

西脇 英隆 (国際協力機構 総務部審議役・前ラオス JICA 事務所長)

・コーディネーター：鈴木 基義 (鈴鹿国際大学 学長)

・参加者：25名

(6) ラオス・ビジネス・フォーラム特別講演会

・開催日：平成17年3月4日(金) 午後2時～午後4時

・開催場所：世界貿易センタークラブ (世界貿易センタービル38階)

・テーマ：①ASEAN 統合とラオス経済

②メコン開発 など

・講師：

H.E. Soulivong Daravong, Minister, Ministry of Commerce

Mr. Vilayvong Bouddakham, Deputy Director General, DDFI, Committee for
Planning and Investment(CPI)

・コーディネーター：鈴木 基義 (鈴鹿国際大学 学長)

・参加者：47名

3. 情報収集提供事業

アジア太平洋地域の経済・産業・社会・文化等に関する情報を収集し広く提供した。

(1) アジアクラブマンスリーの発行

アジア各国の経済・産業、ビジネス情報の他、映画・音楽・料理等の文化情報やイベントの紹介などアジアを多方面から紹介する月報『アジアクラブ・マンスリー』

(The Asian Club Monthly)を83～94号まで発行し、会員および関係者、各地の図書館および全国の交流団体等を通じ広く一般に配布した。

83号	ワンポイント・アジア 今後の日中関係／アジアのかたち—中国ウ・ジェのファッションデザイン／イラン映画祭／Disk Aroud The Asia「台湾の注目アーティスト」 他
84号	アジアのかたち—インド ムラリ・ナイール監督／変わる台湾と中国の経済関係／新連載 バングラデシュの現代アーティスト／Disk Aroud The Asia「Bajakan!」 他

85号	中国の景気過熱をもたらす地方の過剰投資／アジアのかたち—中国 呉志強と上海世紀大道／ アジアの祭「ナーダム」他
86/87号	大統領選挙後のインドネシアを展望する／経済連携の時代に入る東アジア／アジアのかたち最終回—インド Maniratnam 監督 他
88号	活発化する中国企業の海外進出と政府による奨励策／バングラデッシュの現代アート4／シネマ「春夏秋冬そして春」他
89号	中国の為替制度と資本取引自由化の展望／東京フィルメックス映画祭／成長するインド経済の現状と展望／アジアの祭「ラオスのタート・ルアン」他
90号	不透明感が出てきた東アジア経済／アジアの祭／Disk Aroud The Asia 「Salon de musica」／ 映画「もし、あなたなら～6つの視線」他
91号	2005年のアジア経済を読む／シネマ・スペシャル 2004年の映画と 2005年の注目映画／アジア料理—トルコの「カルヌヤルク」／アジア Reveiws 他
92号	重要な日韓経済連携協定の締結／シネマ韓国の『大統領の理髪師』／アジアのアウトソーシング—フィリピン／シリーズ：アディバシ先住民族の魅惑 他
93号	拡大する中国の地域間格差と今後の課題／インドのBPOアウトソーシングの実態と課題／Disk Aroud The Asia『東方神起』／インドネシア・ヌサテンガラ州の祭 他
94号	アジアの為替政策 協調実現への課題／アジアのオフショアアウトソーシング最終回／バングラデッシュの現代アート／アジア Reviews 他

(2) アジア人材情報の収集・提供

アジアの次世代をになうであろう各界の中堅企業家、政治家、学者、文化人等の情報を収集した。今まで情報収集した国は下記のとおり。

インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、カンボジア、中国、ミャンマー、インド、ベトナム

本年度はカンボジア、フィリピンを除く8カ国の更新・追加を行った。情報は総計で約1900名となった。これらの情報はホームページ上でアジア Who's Who として広く一般に情報提供した。

II ロシア東欧貿易会受託事業

1. アジアラウンドテーブルの開催

アジアの経済人、学者等各界の有識者を一堂に集め、相互に国境を越えた討議を行う場を設け、アジアの調和ある発展の方向を探る目的で、第31回アジアラウンドテーブルを開催した。

<概要>

人財（人材）・商品・資金・知識・情報などが容易に国境を越え、経済面での統合が進む「グローバルゼーション」化の中、「グローバル経営」ということばが日本やアジアの経済・経営の重要タームとして使用されることが多くなった。それは日本に大きな機会を提供するとともに、産官学での変化への対応力を鋭く問うてもいる。日本やアジアの企業

も国際化、現地化せざるを得ず、大学なども新しい世界に潮流をあわせて変化していかなければならない。問題は変化のスピードで、日本の場合それを速めるための規制緩和や企業での新しい人事戦略の採用が緊急課題である。

こうした日本企業などの「グローバル経営」の前線で起こっている課題や、日本の教育関連の国際化の問題について現状をレビューし、今後の産官学のあるべき対応について、アジア諸国と日本の有識者の間で忌憚のない討論を行った。

- ・開催日：平成16年11月5日（金） 午後1時30分～午後5時30分
- ・開催場所：スカイホール マリーン（世界貿易センタービル38階）
- ・テーマ：“人財”とグローバル経営
- ・パネリスト

Dr. Sununta Siengtrhai, Associate Professor, School of Management, Asian
Institute Technology タイ

雷 海濤（東芝（中国）有限公司 副総裁・研究開発センター 所長）中国

Dato' Zulkifli A. Malek, Mizuho Trust & Banking Co., Ltd. マレーシア

石川 正樹（経済産業省 産業人材政策担当参事官室長）

小野 豊和（（社）日本在外企業協会 業務部長）

馬越 恵美子（桜美林大学 経営政策学部 教授）

- ・コーディネーター：木下 俊彦（早稲田大学 国際教養学部 教授）
- ・参加者：76名

Ⅲ 機械工業等技術研修生交流事業

（社）日本機械工業連合会から事業を受託し、市民レベルでの友好親善と相互理解を深めるため、研修で日本に滞在するアジア等からの技術研修生等を日本の家庭に招くためのホームビジット斡旋事業を次のとおり実施した。

研修生は、3人1組で日本の家族と昼食もしくは夕食を共にし、数時間歓談し日本に対する理解を深めた。

参加した研修生：17名 受け入れ家庭：7家庭

なお、平成17年3月現在登録済みのホストファミリーは東京80家庭、

Ⅳ 一般事業

1. アジア食文化紹介講座

アジア各国の食文化、生活模様などを在日大使館や専門家等の協力を得て解説し、交流の促進をはかることを目的にあじあさろん クッキングクラスを開催し、全4回、142名が受講した。

開催日	国名	講師
第1回 平成16年5月22日	タイ	竹下 ワサナ (タイ料理研究家)
第2回 平成16年8月28日	中国 (香港)	黎 志健 (「梨花」オーナーシェフ)
第3回 平成16年11月27日	トルコ	レベント・トラン (「アセナ」オーナーシェフ)
第4回 平成17年2月19日	ブータン	チミ・ウラ (横浜国立大学修士生) 通訳 渡辺 千衣子 (日本ブータン友好協会)

2. アジア文化紹介講座

I. 映画講座

アジア各国で重要な産業として期待を集める「映画」について、その背景となる社会、経済状況を 専門家が解説する特別講座を全2回開催し、75名が受講した。

Part 1 平成17年2月27日 (土)

<スマトラ沖大地震・津波被災者 チャリティ イベント 協力事業>

テーマ:『ビューティフル・デイズ』からインドネシアの魅力を探る

講師:佐々木 信子 (専修大学 非常勤講師)

江戸木 純 (映画プロデューサー/映画評論家)

Part 2 平成17年3月12日 (土)

テーマ:「アジア映画総論」

講師:市山 尚三 (映画プロデューサー/兵庫大学 非常勤講師)

/TOKYO FILMeX ディレクター/ヴェネチア映画祭国際審査員)

II. 社会事情講座

日韓国交正常化40周年 (平成17年) を目前に、韓国の第4次日本文化開放により更なる前進が期待される日韓関係を文化的側面から探る講座「韓国を知ろう、語ろう」を開催し、全3回、160名が受講した。

Part 1 平成16年5月15日 (土)

テーマ:「韓国を理解するいくつかのキーワード」

講師:小倉 紀藏 (東海大学助教授/NHKハングル講座講師)

Part 2 平成16年6月12日 (土)

テーマ:「韓国エンターテイメント トーク 1 - 映画・ドラマから見た韓国」

講師:田代 親代 (フリージャーナリスト)

松岡 環 (アジア映画研究者/早稲田大学、麗澤大学 非常勤講師)

Part 3 平成16年6月26日(土)

テーマ：「韓国エンターテイメント トーク 2－映像を通じた日韓交流の今後」

講師：小山 一彦（(株)ビジュアルコミュニケーションズ代表）

小倉 紀藏（東海大学助教授/NHKハングル講座講師）

3. ナマステ・インドアの開催

インド理解と交流促進のために、インド民族舞踊、音楽、映画上映、講演会などを始めとする各種イベントを組み入れた「ナマステ・インドア」を開催した。

- ・開催日：平成16年10月17日(日)
- ・開催場所：築地本願寺
- ・主催：財団法人アジアクラブ 日印経済委員会
NPO日印国交樹立50周年記念事業を盛り上げる会
- ・協賛：外務省、経済産業省、日本商工会議所、日本貿易振興会、(財)日印協会
- ・内容：インド政府観光局・観光コーナー、ブックフェア、インド物産・料理屋台、サリー着付教室、インド写真展、松岡環講演会、映画上映、インド音楽、舞踊の発表
- ・参加者：約5000人

VI ACFメンバーズ（アジアクラブ友の会）

アジアクラブ活動の一般への活動強化、財団事業の支持基盤の裾野拡大、各種事業へのアウトソーシングの活用等を目的とする『ACFメンバーズ』を平成10年2月に発足させ、会員数は400名に達した。会員参加のセミナー、研究会、イベント等を50余企画・開催し、メンバーの啓蒙に資するとともに、会員相互の交流が活発に行われた。

B 組 織

I 理事会の開催

当財団の重要事項を審議、決定するため、会長、理事長および理事をもって構成される理事会を本年度中に次の通り開催した。

第1回理事会

日 時 平成16年5月25日（火）午前10時20分～11時20分
議 題 1. アジアカラブの今後の方向性について

第2回理事会

日 時 平成16年6月15日（火）午後2時～午後3時
議 題 1. 平成16年度「日本自転車振興会補助事業」の実施 について
2. 平成15年度事業報告・収支決算について
3. 平成15年度日本自転車振興会補助事業「事業評価書」について
4. 顧問の推薦について

第3回理事会

日 時 平成17年3月22日（火）午後3時～午後4時
議 題 1. 平成17年度事業計画・収支予算について
2. 評議員の委嘱について
3. その他

II 評議員会の開催

第1回評議員会

日 時 平成16年5月25日（火）午前10時～10時20分
議 題 1. アジアカラブの今後の方向性について

第2回評議員会

日 時 平成16年6月15日（火）午後3時～午後3時40分
議 題 1. 平成15年度事業報告・収支決算について
2. 平成15年度日本自転車振興会補助事業「事業評価書」について

第3回評議員会

日 時 平成17年3月22日（火）午後2時～午後2時40分
議 題 1. 平成17年度事業計画・収支予算について

Ⅲ 維持会員

平成 16 年 3 月 31 日現在 32 社であった維持会員数は、平成 16 年度末には 29 社となった。